被災地を歩く

東日本大震災 本紙記者ルポV　―12―

宮古市役所周辺

自治意識醸成へ奮闘

約1年4カ月ぶりに宮古市役所周辺を訪れた。8階建ての本町災害公営住宅が完成し、近くにはスーパーマーケットも新たにできるなど街の様子はまた変わっていた。同公営住宅は34戸が整備され、市によると11月に入居が始まるという。比較的復興が早い地域だが、早期復旧を望む住民には「待ちかねた」との思いも強いだろう。

入居を予定している宮古市消防団第1分団班長の坂本嘉一さん(56)＝南公園仮設住宅＝も「ようやく移れるのか。ここまで長かった」と語る。

次に備え

震災で市役所そばにあった自宅が流失した坂本さん。震災時は水門閉鎖、避難の呼び掛けに当たった。同分団は市役所そばの屯所も1階が浸水。高台に仮の屯所を置き、坂本さんもがれき撤去や行方不明者の捜索に当たった。その後応急復旧はしたが、市役所そばの屯所が完全復旧したのは昨年9月だったという。

坂本さんは母親(82)とともに本町災害公営住宅に移ることに対し「ほかの地区の災害公営住宅でも良かったが、消防団員として万が一の場合にすぐに駆けつけられる場所に住みたかった」と説明する。「震災前も市役所周辺から郊外に移って家を建てる人が多かった。津波があって経済的理由や防災面からさらに住民は少なくなっている。消防団活動をいかに維持していくのか」と課題を挙げる。

停滞懸念

同市の消防団員数は機能別団員を含めて1228人。定員の1590人を下回る。同分団の現在の団員数は約20人で、震災前と変わらない人数を維持しているが、中心部の人口が減少する中で、いかに活動を停滞させないようにするか懸案は少なくない。

同分団は現在でも定員には7人ほど足りていないというが、役職を兼務するなどして活動を維持する。「都市住民の連帯感が薄くなる中で、何とか地域、家族を守るため協力し合おうという気持ちを引き継ぎ、次の世代に渡していきたい」と心を砕く。

分団長(63)は「震災時の活動も、やるべきことをやるという使命感が背景にあった」と振り返る。

市役所4階から閉伊川河口部を眺めると水門の工事が進んでいた。震災後、新しく整備することが決まった施設だ。2017年度までの事業で、左岸と右岸の2回に分けて川を締め切り、水を抜いてコンクリートを打設するなど幅154・4㍍の水門を整備する。

新たな災害に対するハード面の備えは徐々にだが進んでいる。一方、災害公営住宅や水門の完成で、まちの姿はさらに変わっていく。消防団のあり方に表れるように自治意識の醸成、地域コミュニティーの維持は今後の大きな課題だと感じた。

（報道部・熊谷真也）

宮古市役所4階から眺めた閉伊川河口部。新たに水門の整備が進んでいる＝14日

完全復旧した宮古市消防団第1分団の屯所を見つめる坂本嘉一さん。今後の消防団活動のあり方を模索する＝14日

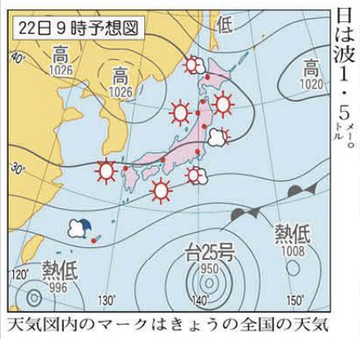
津波から一夜明けた宮古市役所の周辺。水はひいたものの、がれきや泥が残された＝2011年3月12日午前6時14分

宮古市内の災害公営住宅　市営は18団地、県営は7団地が整備される。計25団地で計766戸を備える。本年度までに743戸が完成する予定。2016年度に最後となる山口災害公営住宅（23戸）が出来上がる計画となっている。

県内13市の天気予報

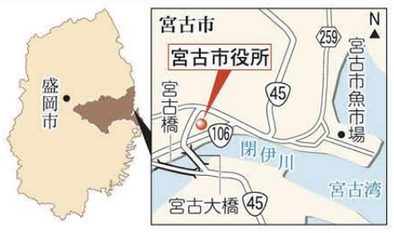
＊右端は気温（左上は今日の最高、右下は明日の最低）
日本気象協会東北支局発表

	6時	9	12	15	18	21	0	3	6	9		
久慈	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☀		15	2
二戸	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☀		14	0
八幡平	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☀		15	-1
盛岡	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☀		17	3
花巻・北上	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☀		18	5
遠野	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☀		16	4
奥州	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☀		18	6
一関	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☁		18	8
宮古	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☀		15	6
釜石	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☀		16	7
大船渡 陸前高田	☀	☀	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁		16	7



天気図内のマークはきょうの全国の天気

概況　22日は西から移動性高気圧におおわれる。内陸は日中は穏やかに晴れる。沿岸は湿った風の影響で雲が広がりやすい。海上は北の風が吹く。海上の波の高さは、22日は波1・5㍍。23日は波1・5㍍。



23日(金)	旧9月11日	宮古 (潮位cm)		24日(土)	旧9月12日	宮古 (潮位cm)	
	―若潮―	満 12:39	(38)		―中潮―	満 13:12	(43)
盛岡 日出 5:53 日入 16:46 月出 14:07 月入 0:25	月齢10.1	潮 23:41	(30)	盛岡 日出 5:54 日入 16:45 月出 14:46 月入 1:33	月齢11.1	潮 ―	(―)
		干 5:08	(-31)			干 6:20	(-30)
		潮 18:26	(2)			潮 19:15	(-16)

世界の天気

（上から天気、最高、最低）

ソウル(20日)	晴	23	12	パリ(19日)	晴	11
北京(20日)	雨	14	8	ロンドン(19日)	雨	14
シンガポール(20日)	晴	32	27	モスクワ(19日)	雨	8
シドニー(20日)	雨	29	19	ニューヨーク(19日)	晴	12

（AP＝共同）

県内・全国の気温　21日（▲は平年比低）

	最高	平年比	最低	平年比	天気
岡古	16.2	▲ 0.3	2.4	▲ 3.5	快晴
渡戸	14.7	▲ 3.0	4.4	▲ 2.9	―
盛船	15.4	▲ 2.3	7.6	▲ 0.7	―
宮大	15.0	▲ 1.6	－ 0.8	▲ 5.5	―
二久	16.0	▲ 1.4	2.1	▲ 3.5	―
遠北	15.6	▲ 0.8	0.9	▲ 3.9	―
釜江	16.8	▲ 0.3	5.2	▲ 1.8	―
二	15.8	▲ 2.2	5.9	▲ 1.8	―
一	17.4	▲ 0.1	4.4	▲ 2.0	―
関	17.5	▲ 0.3	6.7	▲ 0.7	―
釧	11.8	▲ 2.0	2.1	▲ 2.2	晴曇一
札	12.9	▲ 1.9	6.7	▲ 0.3	晴
八	15.7	▲ 1.3	4.4	▲ 2.8	快晴
秋	16.3	▲ 1.2	4.8	▲ 3.8	快晴
仙	17.3	▲ 1.2	9.2	▲ 0.8	快晴
福	19.6	0.5	11.2	1.5	快晴
水	18.0	▲ 1.9	13.5	3.0	快晴曇
東	20.8	▲ 0.1	15.8	2.6	快晴
新	18.7	▲ 0.6	10.2	▲ 1.4	快晴
長	23.2	5.2	9.5	1.3	快晴
静	23.4	1.1	14.3	0.4	快晴
名古	25.1	3.2	15.8	2.9	快晴
金	23.9	3.6	13.7	1.5	快晴
京	26.3	4.4	15.9	3.5	快晴
大	26.4	4.1	16.8	2.5	快晴
広	27.0	4.6	16.0	3.1	快晴
松	22.4	1.7	15.0	3.5	快晴
高	26.3	2.5	14.6	1.0	快晴
福	25.7	3.2	15.8	1.5	快晴
鹿	27.5	2.9	18.2	1.9	快晴
那	29.2	1.9	23.9	1.3	曇

最高気温は県内が18時、全国が15時現在　最低気温は盛岡から大船渡と全国は21―9時、二戸から一関が0―9時、天気は15時現在（宮古から一関と八戸は天気観測なし）

◇沿岸の水温　21日10時現在。（水深）
野田湾 17.0度(5㍍)　釜石湾 17.8度(3㍍)
山田湾 17.1度(3㍍)　大船渡湾 18.4度(5㍍)

いわて　東日本大震災

三陸に暮らす ⑲

野田・食用菊　輝く花びら 収穫盛ん

高台移転団地が着工　着々と進む野田村。まち見渡す高台の畑の一角　われている。「かつては　震災後、長年出稼ぎをし、被災地のかさ上げが　手作業による花摘みに追　していた夫の忍さん(75)が帰郷し、現在は夫婦2人で農業を営む。今月中旬に稲刈りを終え、食用菊の収穫が始まった。朝と夕方、花を摘み取り、花びらをむしって袋詰めし、産直などに出荷している。

農業の傍ら、地域の伝統料理の伝承や食品開発などに取り組む同地区の生活研究グループで活動し、「食の匠」でもある幸子さん。「農業と食文化を楽しみながら暮らしています」。土地に根差した生活に充実感を感じている。

（文・写真　宮古支局・菊池範正）

食用菊の収穫最盛期を迎え、作業に励む新山幸子さん＝野田村野田

地区一帯の農家が食用菊で、黄色に輝く食用菊の収穫が最盛期を迎えている。同村野田の農業新山幸子さん(68)は連日、

田老産ソバ 味わって

宮古・復旧農地で栽培

地元主婦らが提供開始

東日本大震災で被災し、復旧した農地で収穫したソバを提供する「はなや蕎麦たろう」が21日、宮古市田老にオープンした。地域で育てたソバを多くの人に味わってもらおうと地元の主婦らが奮起。田老の新しい魅力発信に張り切っている。

地域住民らで組織する営農組合八幡ファーム（小林智恵子組合長、組合員30人）が昨年からソバを栽培。津波で海水をかぶった農地を県が復旧したもので、震災前は個々で利用していた。今年は約2㌧で約1㌧を収穫したという。

これまで川井産業振興公社への販売や地域での振る舞いで提供していたが、今季から仮設店舗で提供を開始。土日祝日のみ喫茶営業を行う「たろうの浜小屋」の店舗を活用し、平日昼のみ営業する。

同ファーム組合長も務める店長の小林さんは「地域の人たちや工事業者の皆さんに食べてもらう場をつくりたいと考えていた」と語る。

田老産ソバのかけそばか、ざるそばとおにぎりが1個付いて500円。1日限定20～30食。甘みがあり、つるつるとしたのどごしで、早速好評を得ている。

仮設店舗で半年ほど営業し、来春には国道45号沿いに本店舗を構える予定。三陸鉄道田老駅前のソバ畑には初秋になると白い花が咲き誇り、新たな景観も生み出している。

小林店長は「景色も味も合わせて、田老のソバが有名になってくれればと思う。新たな名物にしたい」と意気込む。

はなや蕎麦たろうの営業時間は平日の午前11時～午後2時。

田老産ソバの提供を始めた「はなや蕎麦たろう」。地域住民らが訪れ、早速味わった

復興道路に思い描く

宮古 花輪小児童が見学会

宮古市の花輪小（青笹光一校長、児童14人）の5年生20人は21日、県が復興道路に位置付ける宮古盛岡横断道路（国道106号）宮古西道路の松山―根市間（延長3・6㌔）の現場見学会を行った。

児童らは松山トンネル（仮称）から長沢川橋（同）までの道のりを説明を受けながら見学。災害時における緊急輸送路としての役割や同地区に点在する埋蔵文化財を配慮して整備が進む道路や橋の工事について学んだ。

長沢川橋の床版には、児童一人一人が「がんばろう宮古」「ひろがる夢　つながる」などペンキでいろいろなメッセージを書き込んだ。飛沢逸音（はやと）君は「トンネルや橋の工事と勉強になった。完成した道路を通ってみたい」と笑顔を見せた。

児童らのメッセージは舗装工事が進むと見えなくなってしまうが、橋の完成後も舗装の下に残り続ける。同工区は2018年度内に供用開始を目指す。

橋の床版に復興への思いを書き込む花輪小の児童たち

新潟の子どもに感謝

陸前高田市広田町の広田小仮設住宅
佐々木ヒロイさん(75)

仮設も空き部屋が増え、だいぶ寂しくなってしまった。子どもたちと話すことも少なくなっている。そんな中、新潟県長岡市の脇野町小が今年も高田に来てくれて、「キャンドルホルダー」を作り交流した。一生懸命、仮設にいる人たちを励ましてくれる気持ちは本当にうれしく、涙が出てくる。楽しい時間をありがとう。

津波てんでんこ

題字
山下文男さん

教訓と備え

大槌町大槌
特別養護老人ホーム「三陸園」職員
兼沢　依子（えみ）さん(20)

民間ヘリを活用した災害想定訓練に参加した。乗るのは少し怖かったが、人を乗せる介助をしたり、地上で誘導したりと、実際にヘリを使うことがあればこの経験が生かせると思う。いつ起きるかわからないのが災害。普段からこういった経験を通して備え、非常時も率先して動くことができればいい。

率先して非常時対応

東日本大震災　義援金受け付け

◆岩手日報社窓口
本社と二戸、花巻、北上、奥州各支局と一関支社で。平日の午前10時～午後4時（土・日・祝日は除く）。
※口座名はいずれも「（株）岩手日報社」。同一銀行からの振り込み手数料は無料（窓口取り扱いのみ）。

◆銀行振り込み
▽岩手銀行本店（普）2135547
▽北日本銀行本店（普）7028487
▽東北銀行本店（普）3237448
▽盛岡信用金庫本店（普）0354142
▽東北労働金庫盛岡支店（普）5858584
▽岩手県信連本所（普）0027190

ネパール大地震　義援金受け付け

◆岩手日報社窓口
本社と二戸、花巻、北上、奥州、大船渡、釜石、宮古、久慈各支局と一関支社で。平日の午前10時～午後4時（土・日・祝日は除く）。
郵便振替をご希望の方には郵便振替用紙（手数料無料）を郵送します。
問い合わせは岩手日報社事業部内、ネパール大地震義援金係（019・653・4121）へ。日、祝日を除く午前9時～午後5時。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。